

[CASE 05]

一度リストから外した家!?

〈家族構成〉夫30歳、妻29歳
〈入居日〉2023年09月

戸建て購入の平均年齢は30-40代と言われます。O様ご夫妻の年齢層であれば、購入がぼんやり視野に入る頃合いでしょう。奥様もやはり視野にあるものの、まだ早いかな？という認識だったといいます。一方ご主人は

「同棲から半年ほどして、正式に籍を入れたのが今年の夏でした。結婚もしたことだし、次は家の購入かなという意識がありました。ただし、僕自身『絶対に家を購入したいというよりは、マンションの更新が来るまでに希望をする物件が見つければ』という、あくまでも理想とする物件に出会えたらという意識でした」

決断。でも余裕をもって。

ご主人が早くから戸建ての購入へ意識を向けていたのも、家賃とローンと比較したときの将来的な負担額の差異、そして住宅控除ローンの状況を見据えてのことでした。

「戸建てを購入しようという意識が芽生えたとき、まずはファイナンシャルプランナーの方に相談をしました。そのときに『今の物価高を考えれば、数年後も特段の変化は出ないでしょう。理想とする物件があるのなら、早めに購入したほうが将来的には有利です』と言われました。僕自身も早いほうがいいだろうという思いもあって、時間があるときにいろんな物件を探しては、気になったら登録。時間を見つけて、夫婦で物件探しに足を運ぶようになりました」



↑南からの光が差し込んで、とても明るい。

一度リストから外したけど…「ここ、いいね」という話に！

実はO様邸は、一度は候補リストから外した物件だったそうです。

「まだ基礎工事のときに、完成図を見て一度ここに足を運びました。南側で2棟工事をしており、3棟が並んだときに陽射しが遮られてしまうのではという懸念から、一度見送りました。それでもここに決めたのには、「外観が出来上がったので、良ければ一度見てみませんか？」と、三絆さんから連絡をいただいたことがきっかけでした。

中へ入らせていただいたとき、思っていた以上に光を取り込む作りで、「明るいな」と思ったのが印象的でした。そのうえで内装について「リビングと和室が地続きになっていて、ここはアクセントクロスになります。扉と床のカラーはこう組み合わせで、キッチン…」など、完成を見据えた具体的な話をいろいろと聞かせていただきました。彼女はもちろん。僕自身の好みにもフィットしていたことから、「ここ、いいね」という話になりました。



↑階段の収納棚にはおふたりの門出のお写真。

ご夫妻が実際に観た物件数は、おおよそ20件。焦らずいろんな物件を見ながら、理想となる住環境を整理し、条件を絞っていきます。最初こそ、購入する沿線も多岐に渡っていましたが、現在の沿線に決めたのも条件を絞り込んだうえでのことでした。

「同棲して住んでいたのが徒歩2分という環境でした。それまで彼女は実家暮らしで、駅から徒歩15分という場所に住んでいました。お互いの通勤の利便さもありましたが、駅近の住環境の良さを実感した彼女からも『購入するなら駅近がいい』と言われていました」



↑ホワイトベースのキッチンに、同系色の天井クロスがおしゃれ。

「彼の言う通り和室や床暖房、カップボードや食洗器の設備のほかにも、内装のカラーも気に入りました。同じ価格帯で同じ駅近の物件も内覧していましたが、そこと比べてこの家の良さを知れたことも大きな決め手になりました」と奥様。

余裕をもって多くの物件を比較していたことが、ご夫妻の決断へ導いたのですね。



おふたりのお気に入り、リビングに続く和室。↑

おふたりの「お気に入り」を聞いてみました！

「自分たちの部屋と子供部屋は独立して欲しいと思っていましたから、2階に3部屋+書斎があるのはいいですね。書斎は仕事柄テレワークも行なうこともあって便利ですし、将来は子供の勉強部屋にしても良いですし。

畳の部屋はそこまで必要性を意識はしていませんでしたが、実際に住んでみたら畳ならではのリラックス感を満喫しています。キッチンに立っていても奥の畳部屋まで見渡せるので、子供ができたときも安心です。何より、この解放感のある1階がとても気に入ってます」



「私も広々としたリビングはお気に入りです。とくに1階は東西に広くて南側の光も強くなりすぎず、でも窓からしっかり光を取り込んでいるから、1日中部屋が明るいです。

備えつけのカップボードも使いやすく、何よりキッチン自体が広くて、ストレスフリーなのがいいです。他にもこの家には2か所にテラスがあって、とくに南側のテラスは外から完全に遮断されていて、将来子供ができたときに遊ばせても安全だし、キッチンやリビングからも目が届いて安心ですよ。今は、お友達を呼んでバーベキューなどもしています」

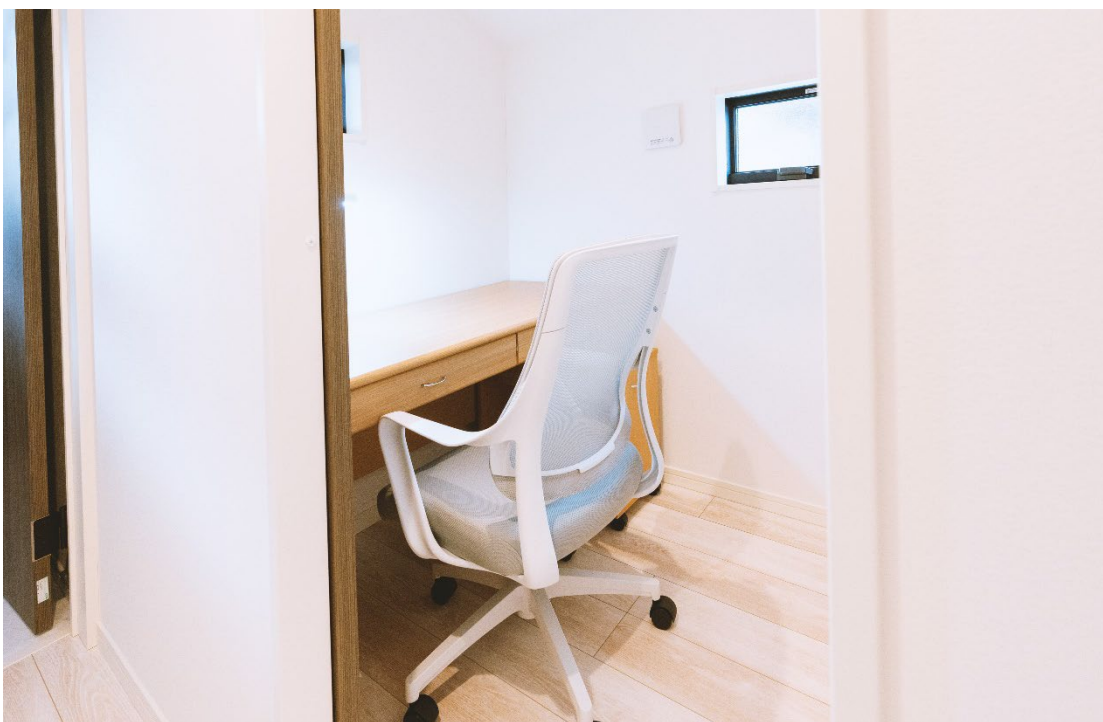
とはお料理好きの奥様談。

お二人の「お気に入り」がどちらも将来を見つめていたのが印象的でした。

お父さんもお気に入り？

「最初に、「家を購入しようと思っています」と彼女のお父さんに話をしたときは、「まだ早いんじゃないか?」と言われていました。でも、彼女の実家が近隣にあり、実家までの距離が近いこと。彼女自身が小さい頃から慣れ親しんだ地域であるなど、彼女のご両親が安心を覚えてくれたのも理由の一つでした。

内覧をしたときに彼女のお父さんも一緒に来たことがあったんですが、工事中の床に「高級住宅用シート」と書かれたシートが置いてあったのを見たお義父さんが「おっ、高級住宅用だってよ。」と喜んでくれたのを覚えています。今では、『俺の部屋はないのかよ』と言うくらい、ここを気に入ってもらっています」



↑まだ家具のない居室にも、おふたりの未来設計が詰め込まれているのでしょうね



↑ウワサの「高級住宅用シート」です！

注文住宅とは異なり、建売住宅はどれだけ購入者側の希望を満たせるかが大切な要素になります。

一棟ごとにこだわりを持って建築をしている弊社の思いがO様ご夫妻の夢に沿えたのであればと、気持ちを新たにできるインタビューでした